

## 県民・医療機関・行政が手を携えて、新型コロナウイルス感染を乗り越えましょう 病院長 大平 徹郎

新型コロナウイルス感染症はなかなか収束する気配がありません。ただクルーズ船対応で難渋していた2月頃と比べれば、病気に対する知識は格段に深まってきました。わかってきた情報を手がかりに、今後は新型コロナウイルスと折り合いをつけながらの社会生活が求められます（ウィズコロナ社会）。新しい生活様式の必要性は、多くの方が納得されているのではないのでしょうか。

今年3月25日と9月25日の累計患者数を、都道府県別に比較したのが下の表です。多い順にならべてみて驚きました。この半年間の増加率が全国で最も低いのが、新潟県だったのです。

【新型コロナウイルスの都道府県別感染者数】  
～半年前と比べてみたら新潟県は増加率全国最低！～  
(累計人数・NHKまとめ)

【3月 25日】			【9月 25日】		(増加率)
◆	全国総数	1309	◆	全国総数	81177 (62倍)
1位	東京都	171	1位	東京都	24843 (145倍)
2位	北海道	163	2位	大阪府	10333 (73倍)
3位	愛知県	148	3位	神奈川県	6587 (79倍)
4位	大阪府	142	4位	愛知県	5229 (35倍)
5位	兵庫県	118	5位	福岡県	5017 (557倍)
6位	神奈川県	83	6位	埼玉県	4519 (77倍)
7位	埼玉県	59	7位	千葉県	3732 (78倍)
8位	千葉県	48	8位	兵庫県	2636 (22倍)
9位	○ 新潟県	28	9位	沖縄県	2389 (478倍)
10位	京都府	27	10位	北海道	2032 (12倍)
			36位	○ 新潟県	168 (6倍) 全国最低

3月から9月にかけて、日本全体の感染者数はおよそ62倍に増えています。東京都は145倍、沖縄県や福岡県は400～500倍という状況です。

ところが新潟県は6倍（3月25日 28人⇒9月25日 168人）と、全都道府県の中で最低です。全国平均の1/10に過ぎません。患者さんが死に至ることもなく（9月25日時点）、人口10万人あたりの感染者数も低いレベルを維持できています。

新潟初の陽性者判明が2月29日。いわゆるクラスターも確認され、3月は全国上位の感染者数でした。しかしそれが県民に強い危機意識を呼び起こしたのではないのでしょうか。新型コロナウイルスから新潟を守ろうと、行政、私たち医療従事者、県民のみなさんが奮闘した結果、現在、全国トップクラスの感染制御を実現できている印象です。

県民のみなさんからのエールに、私たち医療従事者は大いに励まされました。一方で、県民の方々のが

んばりを讃えて、医療者側からも感謝の気持ちを伝えたいと、新潟県病院協会の会長（富田善彦新潟大学病院長）から発表されたのが次のメッセージです。

これからも県民、医療機関、行政が手を携えて、新型コロナウイルス感染を乗り越えましょう。

### 【新潟県病院協会 会長（富田新潟大学病院長）から 県民のみなさまへのメッセージ】

## 新潟県の医療従事者は、県民に感謝しています

- 1 本県では、
  - 他都道府県と比べ、新型コロナウイルス感染症の爆発的流行には至っておりません。
  - また、一人の死亡者も出ていません。
  - 患者さんを受け入れた病院での院内感染も発生しておりません。

これは、県民一人ひとりが思いやりのある行動に心掛けているからです。  
新潟県民は、真面目で誠実であり、医療従事者とともに新型コロナウイルスと戦っています。  
このことは、医療に従事する私たちにとって本当にありがたいことです。  
心より感謝申し上げます。

- 2 医療従事者に対する感謝の気持ちや行動が報道されています。
  - 医療従事者は、県民の感謝の気持ちや行動に対しお礼を申し上げます。
  - 勇気をもらい、困難に立ち向かうパワーとなっています。
  - 時には背中を押してもらい、患者さんや家族の身になって誠心誠意医療行為を行う糧（かて）となっています。

新潟県の医療従事者は、県民に感謝しています。

新潟県病院協会  
会長 富田 善彦  
(新潟大学医歯学総合病院長)